■向井去来　　俳人。″蕉門十哲″。天才芭蕉の最も良き理解者で信頼され，門人からも敬服された。
むかいきょらい
徳川家光没・1651＝　　長崎後興善町で，代々聖堂の祭酒を務め，俳諧を嗜む向井元升の次男に生まれる。

明暦の大火・1657＝ 6歳：
人身売買禁止1658＝ 7歳：父に伴われて京に移住した。

・・・・・・1660＝ 9歳：

のち福岡に下って武道を修行，
酒井忠清大老1666＝15歳：

ｼｬｸｼｬｲﾝの乱 1669＝18歳：

談林派俳諧・1675＝24歳：この頃，武を捨てて京に戻る。

・・・・・・1677＝26歳：没した父を継いで，典薬(宮中に仕える医師)となった兄元端を助け，
藤十郎登場・1678＝27歳：
公家に出入りして神道家，陰陽家として天文や暦のことに携わったという。
徳川綱吉将軍1680＝29歳：

堀田正俊暗殺1684＝33歳：_上洛した其角に接する。
出世景清初演1685＝34歳：*江戸の風瀑が編んだ「弐楼賦」の発句2章が文献上，去来の俳諧初出作品である。
・・・・・・1686＝35歳：_京都郊外の嵯峨野に別荘を購入して東下，妹と「伊勢紀行」の旅に出，さらに東下して江戸で越年，
生類憐令始・1687＝36歳：*芭蕉らと歌仙を巻く。以降数年の間に3回，上洛の芭蕉を別荘に招き，″西三十三箇国俳諧奉行″とあだ名されるほど信頼され，

別子銅山始・1691＝40歳：*芭蕉監修のもとに凡兆と編んだ「猿蓑」は，蕉風俳諧の代表的撰集と賞せられる。

芭蕉+師宣没 1694＝43歳：「不玉宛論書」成る。_以降3年間，書簡多数。
生類憐令頂点1695＝44歳：
荻原勘定奉行1696＝45歳：

吉保大老格・1698＝47歳：許六・去来「青根が峯」成る。
・・・・・・1699＝48歳：長崎滞在中に成った「旅寝論」，

団十郎刺殺・1704＝53歳：卯七・去来「渡鳥集」。*俳論書「去来抄」を遺して，没した。

「この人どんな人」，「没年日本史人物事典」，平凡社百科事典，